2016年(平成28年)1月10日発行 ❶

京丹後市 商工会だより

Kyotango

協働・共感で響きあう
まちづくりをLEADする
京丹後市商工会

1
VOL.98

Kyotango City Society of Commerce & Industry

京丹後市商工会 〒627-0012 京都府京丹後市峰山町杉谷836-1
●TEL.0772-62-0342 ●FAX.0772-62-3553
●URL：http://kyotango.kyoto-fsci.or.jp

年頭挨拶

会員へ より高い サービスの提供を…

京丹後市商工会
会長 沖田康彦

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族お揃いでお健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年中は、商工会の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も相変わりませず、宜しくご支援下さいますようお願い申し上げます。

さて昨年は、京都縦貫自動車道の全線開通、鉄道運行会社の再生や丹後王国「食のみやこ」のリニューアルオープンなどの産業基盤整備が進展し、それが丹後地域一帯で開催された「海の京都博」の効果とも相俟って、人と人との交流、人と地域との交流の増大につながり、明日の北近畿新時代を彷彿させる節目の1年であったように思われます。

しかし地域経済の実態を見てみますと、企業経営は、人材、人手不足の深刻化から一段と苦悩の度合いが深まってきており、また企業間格差の広がりがより顕著になりつつある中で、地域全体が、容易に活力を取り戻せない厳しい一年で推移したように思われます。

本会では、会員ニーズに適応し、会員事業所に寄り添いながら経営の安定、改善からイノベーションなどの創出につなげるサポート活動を推進し、個々の企業の成長発展を促してまいりました。とは云え、地域経済の縮小に歯止めを掛けれたわけでもなく、依然大きな課題として取り残されたままでもあります。

こうした中で、本会は、いよいよ合併から10年目を迎えることとなります。いままで培った支援ノウハウを会員ニーズに適合させ、より高いサービスの提供につなげていくことは勿論のこと、「海の京都」セカンドステージを積極的に展開するとともに、行政と一体となって「まち・ひと・しごと創生」を実現して、活力ある地域社会を目指していく所存であります。

どうか、会員の皆様の一層のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様にとってこの一年が幸多き年でありますよう祈念申し上げ、年頭にあたり所感の一端を申し述べてご挨拶といたします。

誰もが喜びを 豊かに育みゆくさとへ

京丹後市長 中山泰

あけましておめでとうございます。

京丹後市商工会会員の皆様をはじめ、市民の皆様には、平成28年の新春を健やかにお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。

京丹後市商工会におかれましては、きめ細かな経営支援活動をはじめ、各種研修・経営セミナーや地域活性化イベントの実施、さらに精力的な各部会活動など、地域経済・産業の発展に多大なるご貢献をいただいており、改めて感謝申し上げる次第であります。

昨年は、待望の京都縦貫自動車道の全通と峰山方面への事業着手、新・京都丹後鉄道のデビューなど都市部・近隣との交通アクセスの飛躍的向上の時代をいよいよ迎えるとともに、この機会を適確に捉え様々な活力を大きく育むため、地方創生戦略・人口ビジョンの策定とその取組みにいち早く着手しました。織物の本格的な再生を希求する新シルク産業創造、EVタクシー、夢まち創り大学がスタートし、また、創生けん引の体制として、地元金融機関との連携協定、名古屋事務所の設置、テレワーク事業の着手、ビーチフェスタ・海博など海の京都推進、食のみやこの躍進、そして森本工業団地への入居第一号の決定など、あらゆる分野で多くの取組みを全力で進めてきました。更に、新たに生活の現場から多くの市民ビジネスが生まれつつあります。

昨年は、誰もが幸福をますます実感できるまちづくりを目指し「市民総幸福のまちづくり推進条例」を制定いただきました。中心にある「幸福、幸せ」に少し思いを馳せてみれば、何気ない日常の中にいかに多くの幸せ、喜びのタネがあふれていることでしょう！私たちは、普段、食事はじめ生活の諸活動の中でいただくモノ・サービスに込められている沢山の人の汗やお力の一つ一つに思い巡らしながら、例えば今日一日振り返って〝自ら人に尽くしたことと、先人や他人から自分にいただいたことを比べてみる〟だけでも、〝いただく方が圧倒的に大きい〟ことに気づかされ、日常の中の人様のお蔭やご恩の計り知れない尊さ、有難さに思い至ることができます。さすれば転じて、深い感謝とともに、他人の喜びのためにどう行動するか、に自ずと導かれ、更に及んで、〝人に喜びを与え、人の喜ぶ姿を見てともに喜ぶ〟ことにも通じてきます。そして、人の喜びを自分の喜びとすることは、喜びが倍増し、幸福が広がりゆくまちづくりへの尊く輝くエンジンとなります。

各分野で緒につき始めた地方創生の諸取組みを更に力強く発展させていくため、また市内企業の経営安定と成長、ますますの発展のために、商工会をはじめ関係の皆様と一体となり、新経済戦略に基づく地域経済活性化の取組みに、引き続き全力で、本市をあげて全力で取り組んでまいります。そして、互いに心一つに、支え合い、たすけ合い、喜びを贈り合う、ことを大切に、それを通じて笑顔と喜びが循環し、誰もがそれぞれ、喜びや幸福実感をますます豊かに育んでいく、あらゆる分野で「和のちから」が輝く市民総幸福が末永く発展するさとへ。

本年が商工会会員の皆さん、市民の皆さんにとってますます喜びの多い豊かな年でありますよう心からお祈り申し上げまして、新春のごあいさつとさせていただきます。

「文化創生」から新たな京都を

京都府知事 山田啓二

府民の皆さま、あけましておめでとうございます。

昨年を振り返って

昨年7月には、長年の悲願であった京都の南北軸、京都縦貫自動車道が34年という長い歳月をかけてようやく全線開通しました。京都全体に大きな流れを創るこの大事業の完成に尽力された全ての方々に、心からお礼を申し上げます。

この開通を期し北部7市町においては、4カ月にわたり「海の京都博」を開催し盛り上げていただきましたことに対しましても感謝申し上げます。

また、昨年は琳派400年記念事業、さらに国宝「東寺百合文書」と第二次世界大戦後のシベリア抑留者等の引き揚げ記録「舞鶴への生還」の世界記憶遺産登録。そして「日本茶800年の歴史散歩～京都・山城」の日本遺産への認定など北から南まで京都の持つ豊かな文化を示すことが出来た一年でした。

しかし、地方消滅とまで言われる少子・高齢化問題や、雇用情勢が好転すると顕著になる人材不足。円安により輸出産業が伸びる一方、内需型中小企業は原材料高に苦しみ、伝統産業も広幅織物は伸びたのに対し着物の需要はまだまだ低迷、さらにはTPP問題で農林水産業には懸念が広がるなど、さまざまな課題が改めて浮き彫りになった年でもありました。

京都流の地域創生へ

こうした課題の克服と同時に京都の力を最大限に発揮して、京都の将来を切り拓くことができるよう、昨年10月、「京都流 地域創生～『文化創生』から新たな生活を～」をテーマに「京都府地域創生戦略」を策定しました。

こうした問題の背景には東京一極集中や、大都市や大企業志向に代表されるような価値観の固定化が進む中での格差の広がりがあり、社会が柔軟性を失いつつあるのではという危惧があります。今、京都から、少子化問題・子供の貧困対策、若者の就労支援などでもう一度「人づくり文化」を確立させ、マネーゲームにはない真の豊かさを取り戻すために産学公の力を結集し、技術力に裏打ちされたものづくりの素晴らしさを広め、京都の豊かな農林水産資源を六次産業へと発展させる時代を踏まえた「産業文化」を育成し、京都ならではの伝統・文化に恵まれた大都市と豊かな自然をもつ田園の両方の魅力を享受できる、ある面贅沢な「京都ぐらし文化」を創生させなければなりません。そしてこうした文化を統合させ、京都が多様性に富み、躍動的な地域として魅力を世界に発信できる「地域づくり文化」へと昇華させていくことが必要だと考えています。

これからの数年は京都の将来を左右する大事な時です。地域創生は他人事ではなくまさに私たちの未来です。京都には、どこにも負けない歴史と伝統があります。さらには世界水準の大学・研究機関、高い技術力を持った中小企業の集積、豊かな自然環境など魅力的な資源や資産をたっぷり有しています。

「もうひとつの京都」の発信

昨年は「海の京都」を見ていただきました。そして今年は「森の京都」です。京都府の74・3％は森林であり、森は私たちの水を清め、空気をつくり、災害を防ぎ、さらには貴重な木材資源を提供してくれます。何にも代えがたい宝である京都の森の素晴らしさを皆さまとともに分かち合い、次世代に引き継ぐため、「全国育樹祭」を中心に、森の恵みを府民の皆さまに体感していただく「森の京都博」や丹波高原の国定公園の新規指定など、林業の振興と自然保護と森の文化が一体となった「森の京都スタイル」の確立を目指した地域づくりを進めることとしています。

こうした素晴らしい森林を未来に受け継いでいくための財源として、「豊かな森を育てる府民税」の導入を昨年、府議会でご議決いただきました。4月から年600円お願いすることになりますが、どうか府民の皆さまに、この税に対するご理解をいただきたいと思います。

京都の未来を拓く人をつくり、地域経済を活性化させて仕事をつくり、京都への人の流れをつくる。さらには新しい交流の中で持続可能で魅力と活力のある地域をつくり、そして京都から日本を変える新たな「文化創生」。今多くの観光客が京都を目指しています。単に名所旧跡があるからだけではなく、京都の持つおもてなしの心、人を癒す環境、ほんまもんが持つ力が人々を引きつけているのだと思います。

今年、リオデジャネイロでの夏のオリンピック・パラリンピックが終わればいよいよ東京オリンピック・パラリンピックへの道のりが始まります。その皮切りが、秋に京都で行われる国主催のスポーツと文化の国際フォーラムです。京都の「文化創生」はいよいよ本番を迎えます。府民の皆さまのご協力を心からお願いし、この一年の、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。